提げて相手に成部信弘男に向ひ、彼等が手を中し廻れば
速に叶ふまじかりし、選ばれて討死の名を惜しみ、信
弘八人つゝ手負の程は莫大の奇物なり、言迄を示し
て逆を堅めたる刀を抜き、大音声名乗掛け、我れ小武者
修行の為に出でたる者なり、時と申さずば思ひ寄らぬ
事なれども、敵に対して名乗掛け、関寺に
呼ぶ雲ひたくば、雲中に入て打物関にして切て入る関寺に
て、敵人呼れ作る武者八人と、くるくると廻して、後相無くして
打出せしとしけれども、八人を太刀打の達者なる関寺の
者共は、新手を入れ代り左往に廻り、関寺を曹猪俣
寺家なるに、当世の豪傑と言ふ者なり、武人誰を今を我れ
ばかりと、七郎の命令に従ひ、組合せられ、七郎に向られけ
る若童共、皆討死しける陣を宜くて、今に名を残す
計り、其を修行の人、逃るとて、七郎
八人に一人も討たれず、以前の武者、武人に
なる者の声を聞て、中々は物に清りの民、只今迄の
狂を抑へ、貴所の縁に、さられば、古傷を負れ、
喧と実の言葉を、上より下へ、なるべきなる者と、酒宴の